

▼このように説明してみよう！



## ケース④

### 米国等、先進国株式ファンドの購入経験があり 初めて新興国株式ファンドを 購入するお客様

**近**

年、新興国への投資を指向するお客様が増えてきました。人口増加等により経済成長が

期待できることや金融マーケットが拡大していることが理由といえるでしょう。人口増加は生産年齢人口の増加につながり、労働生産性を高めます。同時に消費者を増やすことにもつながり、旺盛な経済活動が一層期待できます。

新興国が投資対象となる理由として、実は政治的な安定・紛争の鎮静化があります。法や交通インフラの整備には政府や軍部の成熟も必要です。中には資源に富む国もあります。先進国がかつて新興国であったときと現在を比較すると数倍・数十倍のGDP規模になっていることも、投資を集める理由になっているでしょう。

高い経済成長率は、先進国にはない魅力です。経済成長に伴い、新興国の株式市場は株価上昇や銘柄増加、国内投資家の増加、海外資本の流入などが期待されます。資産価値の上昇はその後の資産効果もあり、新興国内の消費を促

すことも期待されています。

新興国債券の購入が増えると、新興国通貨高になる傾向があります。新興国株式ファンドへの投資は、株価の上昇と新興国通貨高という2つの側面から、基準価額の大きな上昇が期待できます。

しかし、新興国の通貨は相対的に発行流通量が少なく、株式市場も先進国の規模と比較して小さいため、投資不安等が生じれば新興国投資の魅力が低下します。その結果、新興国の株価下落とともに新興国通貨安が進み、新興国株式ファンドは短期間で大きく下落してしまう場合もあります。

新興国投資では、新興国を要因としない基準価額の変動が大きいのも特徴です。米国等の先進国市場の魅力が高まるような局面や新興国へ投資している企業の本国での経営危機などで、新興国通貨が売られることがあります。このように他の国や企業の事情にも左右されることがあるのです。

また、先進国を投資対象としたファンドと比較すると、新興国株

式ファンドでは入手できる情報が少ない点も、あらかじめ理解を得ることが必要です。政変や自然災害時にファンドの基準価額が大きく変動する場合、国内や先進国ほど早く正確に情報入手ができないことがあるかもしれません。

#### ポートフォリオ全体を見て 資産形成検討を提案

しかし、20世紀とは異なり、現在は政治的な安定やインフラの整備が進んでいます。今後も成長・拡大が期待できる魅力的な市場と位置付けられる新興国投資なので、お客様からの信頼を得られるよう、担当者は新興国投資について十分に説明ができるよう情報収集することが必要です。

すべての投資資産を新興国投資に向けるといふより、資産形成のエンジン役として、投資目的等と照らし合わせて、投資資産の一部を新興国投資にするというように、お客様のポートフォリオ全体を見渡した資産形成提案が期待されています。